

## 工業第一部会「南宮大社参拝」と「中日本冰糖株式会社」視察研修会

工業第一部会（部会長：松下恭規氏）では、岐阜県垂井町にある南宮大社を、毎年11月8日の「ふいご祭（金山祭）」に合わせて参拝しています。この南宮大社は金山彦命を主祭神に旧国幣大社で美濃國一の宮として、また全国の鉱山、金属業の総本宮として、今も深い崇敬を集めています。今年度は27名の参加により、この南宮大社参拝と、近隣の優良企業「中日本冰糖株式会社」、および日本三大稲荷の1つとも言われ商売繁盛の神様と称される「千代保稲荷神社」の視察研修会を開催しました。

中日本冰糖株式会社は、創業122年の歴史を持つ愛知ブランド認定企業で、『馬印』のブランドで砂糖等を製造販売し、氷砂糖のシェアは日本国内トップ（自然結晶タイプの「ロック」でシェア9割、十六面体結晶タイプの「クリスタル」でシェア5割）の会社です。今回訪問した南濃工場は、昔ながらの製造法を守りつつも、完全自動化で生産性の向上を図るなど、非常に衛生的かつ効率的な工場でした。また、併設する「氷砂糖資料館」では、氷砂糖の歴史・文化や、ハリヨ（世界中でも岐阜県西濃地方と滋賀県東部にしかない珍しい魚）の保護活動などの地域貢献活動についてもご説明頂きました。

千代保稲荷神社では、各社の事業繁栄を祈願するとともに、多くの店が軒を連ねる門前町の散策を楽しむことができました。



南宮大社にて集合写真



中日本冰糖株式会社にて集合写真

## サービス第一部会「世界中の誰にも優しい“おもてなし”の心を学ぶ」視察研修会

今年度のサービス第一部会（部会長：玉川愛朗氏）の研修視察は、10月19日、25名の参加者により開催しました。

今回の「ねらい」は、今後、地域力を維持・増進するために「地域の魅力発信力」が益々重要となることから、次の時代を見据えた「街一体のサービス」を学び、勘考する機会とすることにあり、そこで、今注目の「飛騨高山」の地域創生について、“特色ある街づくりと活力ある地域振興”に取り組むコンベンション協会様を訪問し学ばせて頂きました。

ご講話では、現在、この中部地方を取り巻く大きな動きとして、「昇龍道」の名の下に、中部北陸9県の自治体、観光関係団体、観光事業者等による官民一体の広域連携が為され、「協働」して中部北陸圏の知名度向上を図りながら、主に中華圏からのインバウンドを推進し、外国人観光客の受け入れのための環境整備が進められている内容に触れ、その中で地域の独自色を出して「魅力ある観光資源を、世界に向けてより一層分かりやすく、効果的に伝えていく方法」の先駆的な事例を学びました。

特に地方では、「既存の地域戦略に囚われない、従来にない分野への舵取り」が重要となっています。そのため、飛騨高山では、“次の芽（ターゲット）”に早期に着眼し、地方誘客のためのモニターツアーやニーズ調査の実施などを通じて、観光商品の強化や観光ガイドの整備、ホスピタリティの充実等を図り、その過程でどのように官民で相互に連携や役割分業を果たし、機動性のある整備事業や体制づくりで高い実行力を発揮してきたか、などの内容についてお伺い出来ました。

中でも、地域における住民・企業・行政などといった様々な主体が共同し、高い次元の意識を持ちながら、観光素材を残し活かすため、街の景観や歴史・文化といった無形資産を維持しているお話には感銘を受けると共に、サービス関連の企業がどのような視点で地域との共存共栄を歩むか、大変参考になる研修会となりました。

